

# 鉄店 鋼支 ボル 鋼岡 ノボル 静

## 「リフレッシュ計画」始動

### 事務所棟を新築、移転

特殊鋼流通のノボル鋼鉄（本社＝東京都千代田区、三上晃史社長）の静岡支店（静岡市、支店長＝三上裕介取締役）はこのほど、事務所棟を新築、移転した。同じ静岡支店の敷地内に構える熱処理センターや鋼材倉庫の新設も含めた一連の老朽更新投資の第一歩となり、2月末から新事務所での業務を開始した。三上社長は「静岡支店リフレッシュ計画のスタート」と位置付け、熱処理センターを中心とした今後のさらなる設備投資の進展に力を込めた。

工し、今年2月16日に引き渡しを完了。延べ床面積は約500平方メートルで、2階は食堂、更衣室になっている。今後は、2棟の鋼材倉庫（第三・第四）を含む3つの建屋を今秋までに解体し、その跡地に約1年半をかけて

新熱処理センターを建設、移転する見通し。解体した鋼材倉庫の代替として、新事務所棟横の敷地に鋼材第五倉庫を建てる。熱処理の移転完了は19年末から20年初めころの予定。20年から21年にかけては鋼材第一・二倉庫を新設、移転する。鋼材倉庫の床面積の総和は、従来の1・5倍近い2400平方メートルに拡大する。総投資額は、現時点で約14億円の見込み。

備の老朽化とともにスペースも手狭となっていたことから、静岡支店リフレッシュの目玉として新築、移転を決めた。熱処理センターの建屋新設・移転や設備新鋭化などによる総投資額は約8億円の見通し。事務所や倉庫の建設を含めた一連の工事で静岡支店の敷地には余裕ができるため、熱処理事業に関して将来的な拡張余地も残す。

同社は1963年に静岡営業所を開設。66年に現在地に移転し、69年には倉庫、社屋を増築し支店に昇格した。71年からは熱処理加工を行う工場を立ち上げ、熱処理センターとして開設した。各建屋が半世紀近くを経て老朽化したため、支店全体を対象としたリニューアル工事を決めた。昨年8月末に着

### 熱処理センター 生産性向上へ

ノボル鋼鉄の静岡支店は、19年末ころに予定する熱処理センターの新設に伴い能力を増強し、熱処理受託加工を売上高ベースで現状から3割程度伸ばす構え。真空浸炭窒化炉を2基に増設、真空焼戻し炉も3基から4基に増やすとともに各設備を直線にライン化する

三上社長は、「熱処理工場の現場は特に夏場の暑熱が厳しく過酷な環境。新工場で自動化、省人化を進め少しでも負担を軽減させたい」と狙いを語る。

など整流化。さらに、既存設備の7割を新鋭設備に更新するなど大幅な入れ替えを行い、生産効率を向上する。主な狙いは、「熱処理加工を積極的に伸ばすというよりは、老朽更新対応と快適な職場づくりが主眼」（三上晃史社長）。

新工場稼働後は、現在の1直体制からシフトを組み前後に時間をずらすことで作業時間を拡大。生産性の向上と合わせて売上高を伸ばす。熱処理加工の直近の年間売上高は3億円弱。



新事務所棟

新事務所建設に着